



ロータリー アットワーク

ROTARY AT WORK 写真編

有馬三山に山頂標識 設置

神戸有馬ロータリークラブ
第2680地区 兵庫県

有馬温泉から六甲山頂に通じる落葉山（533m）、灰形山（619m）、湯槽谷山（801m）は有馬三山と呼ばれ、古くは万葉の時代から有馬温泉を訪れた多くの歌人により詠まれてきた有名な山々です。また、春のサンショウ採りや秋のマツタケ狩りなど里山として地元住民に親しまれてきた山です。

それぞれがほぼ独立峰で、アップダウンのきつい健脚向きのハイキング・コースとしてハイカーに人気の山々でもあります。これほど親しまれている有馬三山でありながら、これまでその山頂には山の名称や標高を記した標識はありませんでした。

当クラブではここ数年、里山の整備を社会奉仕の重点項目として掲げており、その一環として4月初旬、数日をかけてこの三山に石柱（10cm角×1m長、重さ約30kg）の山頂標識を設置する社会奉仕事業を行いました。石柱、セメント、砂、水、掘削道具など総重量約200kgにおよぶ資材を担いで最大斜度45度の登山道を登り、山頂に穴を掘り、石柱をコンクリートで固定する作業をクラブ会員だけで実施するのは、かなりこたえる作業でしたが、無事標識を設置完了したときの達成感はひとしおでした。

設置後には会員の神職に安全祈願をしてもらい、早速ハイカーたちが標識を囲んで記念撮影をしていました。石柱に刻まれたロータリーの奉仕の心は、ハイカーの安全を見守り、記念となって百年後、千年後も生き続けるものと確信しました。

（川上 良・記）